

項目	内容
名称	ペニーロイヤル、ペニーロイヤルミント、メグサハッカ [英]Pennyroyal、 Pudding grass、European Pennyroyal、American Pennyroyal [学名]Mentha pulegium L. (European Pennyroyal) 、 Hedeoma pulegium L. (American Pennyroyal)
概要	<p>ペニーロイヤルは、ヨーロッパ・西アジア原産で、芳香の強い多年生草本。南北アメリカに帰化。湿地に繁茂し、40～50 cmに生長する。葉は楕円形で鋸歯をもち、花は薄紫色。7～8月の花期に刈り入れ、地上部(精油)、もしくは葉をお茶として利用する。伝統的にノミの駆除に利用されてきた植物で、学名pulegiumはラテン語の「蚤」に由来する。その他の民間療法では、経口摂取で月経調節や妊娠中絶、消化・発汗の促進、外用で抗炎症など。日常的には虫除け・石鹼・洗剤の添加剤として、料理にはプディング (英国北部) やソーセージ (スペイン) などに利用される。</p>  <p>Mentha pulegium</p> <p>写真提供: 薬用植物資源研究センター</p>
法規・制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食薬区分 <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。 ■ 食品添加物

	<ul style="list-style-type: none"> ・天然香料基原物質リスト ペニーロイヤル (メグサハッカ) が記載されている。 	
成分の特性・品質		
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> ・地上部は精油、苦味質、タンニンなどを含む (29)。 ・精油はプレゴン、イソプレゴン、メントールなどのモノテルペンを含む (29)。 	
分析法	<ul style="list-style-type: none"> ・ペニーロイヤル中プレゴンをFT-IR (フーリエ変換赤外分光法) により定量した報告がある (PMID:19817373)。 ・超臨界CO2抽出した精油の組成を GC-MS (ガスクロマトグラフ質量分析) により同定・定量した報告がある (PMID:18969310)。 ・マイクロウェーブ水拡散重力法により精油を抽出した報告がある (PMID:18343393)。 	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献に見当たらない。
	肥満	調べた文献に見当たらない。
	その他	調べた文献に見当たらない。

参考文献

- (20) ハーブ大百科 誠文堂新光社 デニ・バウン
- (29) 牧野和漢薬草大図鑑 北隆館
- (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)
- (33) 世界薬用植物百科事典 誠文堂新光社 A.シェヴァリエ
- (34) 有用植物和・英・学名便覧 北海道大学図書刊行会 由田宏一
- (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)
[\(PMID:19817373\) J Agric Food Chem. 2009 Nov 11;57\(21\):10044-8.](#)
[\(PMID:18969310\) Talanta. 2004 Feb 6;62\(2\):407-11.](#)
[\(PMID:18343393\) J Chromatogr A. 2008 May 9;1190\(1-2\):14-7.](#)
[\(PMID:8909490\) Pediatrics. 1996 Nov;98\(5\):944-7.](#)
[\(PMID:8633832\) Ann Intern Med. 1996 Apr 15;124\(8\):726-34.](#)
[\(PMID:16364129\) Contact Dermatitis. 2005 Dec;53\(6\):355.](#)
[\(PMID:17868232\) Contact Dermatitis. 2007 Oct;57\(4\):285-6.](#)
[\(PMID:513258\) JAMA. 1979 Dec 28;242\(26\):2873-4.](#)
[\(PMID:13264630\) Lancet. 1955 Oct 22;269\(6895\):850-1.](#)
[\(PMID:4044323\) J Am Osteopath Assoc. 1985 May;85\(5\):282.](#)
[\(PMID:1568929\) J Am Vet Med Assoc. 1992 Mar 15;200\(6\):817-8.](#)
[\(PMID:7157374\) Toxicol Appl Pharmacol. 1982 Sep 30;65\(3\):413-24.](#)
[\(PMID:3432735\) Res Commun Chem Pathol Pharmacol. 1987 Oct;58\(1\):75-83.](#)
[\(PMID:6874446\) J Am Osteopath Assoc. 1983 Jun;82\(10\):793-4.](#)
- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳